

平成30年3月14日

| 発 言 者 | 発 言 要 旨 |
|--------|---|
| 野川委員 | 今回追加提案された繰越明許費は、国の補正予算に対応したものになるのか。 |
| 農政企画課長 | <p>国の補正予算に対応した事業については、今定例会における2月22日の本会議で可決された補正予算に盛り込まれている。</p> <p>今回追加提案した繰越明許費は、今年度当初予算に計上した事業について、様々な事由により来年度への繰越しが必要となったものである。</p> |
| 野川委員 | 入札不調を要因とする繰越しが多数を占めるが、入札不調時の発注者の対応手順はどうか。 |
| 農村整備課長 | 今年度の入札不調は、技術者不足を原因とするものが多く、特に庄内管内において多く発生している。様々なケースがあるが、設計内容の見直しや工事の分割による再入札など、個々の原因や状況に応じて対応している。 |
| 野川委員 | 入札不調の要因として設計価格と実勢価格の乖離が考えられるが、状況はどうか。 |
| 農村整備課長 | 発注者側は、標準単価を用いて適切に積算しているが、価格の乖離が生じる場合として、特殊な工事などが想定される。特に、少額な工事の場合には、生じやすいものと考えられる。 |
| 野川委員 | 農業農村整備事業の予算の増加に伴い発注量が増え、一つの業者が何か所も受注した結果として、工期まで完成しない場合があるのではないかと考えるが、その場合、どのように対応するのか。 |
| 農村整備課長 | 工期内に完成しない場合は、適切に工期を変更して対応している。仮に、年度をまたぐ場合は、繰越手続きを行い対応している。 |
| 野川委員 | 予算の増加に伴い発注量が増える一方で、県が雇用する技術職員は限られており、事業を執行するのは大変であると考えますが、どのような工夫を行っているのか。 |
| 農村整備課長 | <p>積算補助業務や技術補助業務を民間のコンサルタント会社に委託し、現在の人員体制でも円滑な執行が図られるよう努めている。</p> <p>現時点の繰越予算の執行状況は、経営体育成基盤整備事業では補正予算分が約4割、当初予算分が約5割、防災減災事業では補正予算分が約5割、当初予算分が約6割を3月末までに執行する見込みとなっている。</p> |
| 野川委員 | 新年度の当初予算分もあり、事業執行が相当大変であるが適切な執行に努めてほしい。 |
| 吉村委員 | 昨年度と比較して入札不調の状況はどうか。 |

| 発 言 者 | 発 言 要 旨 |
|------------|---|
| 農村整備課長 | 昨年度の入札不調は24件であるが、今年度は2月末までに61件発生し、大きく増加している。今年度、夏から冬にかけて、高速道路整備や国道整備に関する工事が数多くあったことから、民間業者の技術者が不足し、入札不調が増加したものと認識している。しかし、3月末までに当該工事は完成することから、入札不調は解消すると見込んでいる。 |
| 吉村委員 | 設計価格と実勢価格の乖離が原因ではないか。 |
| 農村整備課長 | 入札不調の原因は、設計価格との乖離ではなく、民間会社の技術者不足と考えている。 |
| 島津副委員長 | 次世代林業基盤づくり交付金事業の繰越案件のうち、バイオマス施設事案の詳細はどうか。 |
| 木材産業振興主幹 | 当該案件は、新庄市の大型集成材工場が木質チップ製造施設を整備するもので、当初予定していた箇所の地盤状況が悪いため、設置箇所を変更したことにより年度内での完成が困難となったものである。 |
| 島津副委員長 | 森林施業支援事業の繰越額が大きく変更されているが、その要因は何か。 |
| 森林ノミクス推進主幹 | 森林施業支援事業の補正前の404万6,000円については、国の補正予算に対応して計上したもので、繰越承認の議決を得たものである。補正後の1億1,874万2,000円は、今年度当初予算のうち、間伐等の作業の前に必要な林地の境界確認に時間を要し、降雪期に入ってしまったため、年度内の完了が困難となり、繰越しが必要となったものを既に議決を得た額に加えたものである。 |